

私にとって卓球とは

南魚沼市立大和中学校

三年 宮崎 佑太

皆さん、自分にとって「かけがえないもの」はありますか。私にはあります。それは卓球です。私にとって卓球は、単なるスポーツではなく、自分自身を大きく成長させる大切なものです。

卓球部に入っただけで、一年生の頃は、正直あまりやる気がなく、ただなんとなく部活に参加しているだけでした。練習も適にやっていた、大会にも積極的に出ようとは思っていませんでした。私は自分の実力に不安を感じてはいましたが、どこかで「まあ、このくらいでいいかな」とも思っていました。

しかし、二年生の時に「この部活をもっと良いチームにしたい、みんなをまとめる立場になっただけ責任感を持つ経験をしてみたい」という思いから、部長になることを決意しました。

た。「まあ、このくらいでいいかな」がそこから少しずつ変わりはじめました。最初は部長として何をしていたいいかわからなくて不安だったけれど、部活をもっと良くしたい、もっと結果を残したいという気持ちの日々になり、どんどんやる気が出てきました。「立場は人を変える」ということを強く実感する日々でした。

しかし一方で、部長として一生懸命頑張っていたものの、思うように結果は出せませんでした。大会に出ても良い結果を残せず、校内のリーグ戦でも一位争いで負けて、正直すぐく悔しかったです。あの時の悔しさは今でも覚えています。「なんでこんなに頑張っているのに、結果が出ないのだろう？」と自分に對して疑問を持ちながらも、その悔しさを乗り越えようと必死に努力しました。自分のプレーを振り返り、どこを改善すればもっと上手くなれるのかを考えました。技術的な部分だけじゃなく、体力や集中力も足りてい

ないことに気づき、それらを強化するため
練習を見直しました。練習に今までの何倍も
集中して取り組み、ただ練習するのではなく
残された時間を無駄にしないよう一球一球全
力で、何より「絶対に諦めない」という気持
ちを強く持ち続けました。
三年生になった時、ようやくその努力の成
果が大会で実を結びます。団体戦の勝敗がか
かったとても緊張感のある試合で、点を取っ
ては取られてのシーソーゲーム。次第に体力
も削られていく苦しい試合でした。けれど
それでも、一点を取るたびに声を上げて自分
を奮い立たせ、何度も心が折れそうになりな
がら最後まで全力でプレーを続けた事で試
合に勝ち、団体戦優勝という結果を残すこ
とができました。その時の嬉しさは本当に言
葉にできないほどでした。これまでの悔しい
思いを乗り越えて、ようやく結果が出た瞬間
だったからこそ、感動が大きかったです。
振り返ると、卓球はただ勝つためにやるス

ポーツじゃないのだなと思います。勝つこと
ももちろん大切だけど、それ以上に「努力を
続けること」「や」「成長を感じること」「絶対
に諦めないこと」「が何よりも大事なのだとい
うことを学びました。最初はやる気がなかつ
た自分が、部長としてチームを引っ張りみん
なと支え合い一丸となりながら成長して、最
終的に結果を残せたことは、私にとってすご
く大きな経験でした。
また、卓球を通して「仲間の大切さ」も強
く感じました。例えば団体戦では一人ではな
くチームが一丸となって頑張ることが大切で
す。得点をとったら一緒に喜び、取られたら
励ますなど仲間がいるからこそ頑張れるのだ
と思います。そして練習ではお互いにアドバ
イスを出し合ったり、悔しい時に励まし合っ
たりする中で、仲間との絆が深まります。こ
れも卓球の大きな魅力のひとつです。
私にとって卓球は、ただの競技ではなくて
努力を重ねることの大切さ、諦めない精神の

強さ、そして仲間との絆を学ばせてくれる「
かけがえのないもの」です。この経験を胸に
これからどんなことにも挑戦し続けたいと
思っています。